

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社 ユニマツリタイムメント・コミュニティ		
事業所名	太田グループホームそよ風 1F		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.unimat-rc.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最寄りの太田駅から徒歩圏内の為、遠方のご家族様やご高齢のご親族様が訪問し易い環境である。繁華街ではあるが、近隣に大きな公園があり1年を通して季節を感じられる為散歩やごみ拾いに参加し、ご近所様との交流の場として活用させていただいている。1F キンモクセイは介護度の高い方が多く主治医や訪問看護、薬剤師との連携を密にとり、健康状態の安定を図りながら毎日の上下肢体操や口腔体操に時間をかけ、健康維持にも努めている。職員1人1人が入居者様と生活を共にしている事を意識し、ゆっくりと関わりを持ち、落ち着いた環境でコミュニケーションを取り、居心地の良い環境作り力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットの1階は、介護度の高い方が多いため、健康管理に重点を置いた介護がなされている。2階は自立度の高い方が多いので、洗濯物を干したり、ベランダでトマトを育てたり、縫物をしたりしながら、理念にある「活き活きと笑顔で過ごせる」ような支援がされている。食事は、6ヶ月ごとに嗜好調査を行って月に1回のリクエストメニューに反映させ、美食メニューも月に1回提供している。介護計画とモニタリングについては、日々の様子をタブレットPCに入力し、サービス内容の実施状況については一覧表を作成し、毎日、モニタリングを行なっている。職員による運営への関わりは、管理職や管理者が年に数回個人面談を行い、個人目標の達成度等職員の働きがいを確認している。なお、毎月のアセスメントを兼ねた研修会でもある「グループホーム会議」は何でも話し合える環境にあり、職員から介護度上昇に伴う食事介助時の要望に、介助時の増員が実現し、業務改善が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500614		
法人名	株式会社 ユニマツリタイム・コミュニティ		
事業所名	太田グループホームそよ風 2F		
所在地	群馬県太田市飯田町814-1		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.unimat-rc.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最寄りの太田駅から徒歩圏内の為、遠方のご家族様やご高齢のご親族様が訪問し易い環境である。繁華街ではあるが、近隣に大きな公園があり1年を通して季節を感じられる為散歩やごみ拾いに参加し、ご近所様との交流の場として活用させていただいている。2F ハナミズキは自立度の高い方が多く、洗濯たたみ、干し、ベランダにて育てているお花の水やり等それぞれ持っている力を発揮できる場を作る事で、意欲を引き出しながら達成感を感じて頂き、残存機能を維持出来る様支援している。コロナ禍で面会や外出が制限されているが、毎月の季節を感じる制作レクや広いベランダにて日光浴されている様子等ご家族様に文章や写真で報告する事で、ご入居者様の変化や雰囲気と共に感じて頂ける様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 1F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は毎日社長からのメールに記入されており、社員全員が目にしており、意識している。太田GH独自の理念は朝・夕の申し送り時必ず目にする場所に掲示し共有している。	利用者も職員も理念にある「笑顔で」過ごせているのか、朝礼時に職員間で確認している。職員は利用者が出来ることを見つけて、利用者自身で行って頂くことで、本人の自信に繋げ、「生き活きと笑顔で過ごせるよう」理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になってからは行えていないが、地域の方にお声がけし、消防訓練や、ごみ拾い等行いたい。	以前は、地域の方に避難訓練に参加してもらったり、保育園児との交流もあった。コロナ禍になってからは近くの公園でごみ拾いをしたり、散歩にくる方と交流したりしている。利用者と郵便局に手紙を出しに行くなど、外出の機会をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍になってからは行えていないが、地域交流室を活用した認知症予防体操や介護相談等行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為対面での会議は行えていないが市役所の介護サービス課や区長、民生委員様に資料をお送りして報告、意見をいただくようにしている。	会議は書面開催で、議事録は区長・民生委員・市の介護サービス課に郵送している。議題はヒヤリハット・事故・急変対応報告・行事報告・その他の連絡事項であるが、会議メンバーから質問や意見等は頂けていない。	会議メンバーである家族にも会議の内容をお伝えするような機会づくりに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービス課、地域包括、保健センター等連携を図り必要に応じて報告、相談を行っている。	コロナウイルス感染症対策や発症時の対応について、市の介護サービス課や保健センターと密に連絡を取っていた。保健センターには、コロナやインフルエンザワクチンの接種券不明者の相談に頻繁に対応していただいていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化・虐待防止委員会を3ヶ月に1回行き、毎月のGH会議で身体拘束・虐待防止の研修を行い不適切ケアの分析を行い拘束・虐待の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待については、利用者が声をあげられないので、職員が知識を持っていることが重要と考えている。毎月行うグループホーム会議でも不適切ケアの事例等で学び、身体拘束をしないケアの実践に務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の前の不適切ケアの分析に力を入れ虐待が起きないように内部の研修会において学びを深め、あらゆる場面で虐待が起きないように理解と予防につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃる、関わる機会、学ぶ機会も多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約は時間をかけ1つ1つ疑問が無いか確認しながら行い、納得頂いた上で署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様とのコミュニケーションは常日頃から重要視し、意見要望の吸い上げに取り組み、頂いたご意見は迅速に反映させサービス向上に活かしている。	ビデオ通話を活用する中で、家族からコロナ禍だが、好きなものを食べさせたいと希望があり、差し入れを受け入れたり、腹部が大きい利用者のリハビリパンツを、ホームのものではなく、家族が用意したものを採用したりなど、頂いた意見をケアに活かしている。	事業所の運営について具体的に提案し、家族の意見や要望を引き出す機会を今まで以上に作っていただくことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、GH会議の際職員からの意見や提案を聞く機会を持ちコミュニケーションを図り何でも話し合える環境にある。職員から出た意見や要望はスピード感を持って対応している。	年に数回、法人の管理職や管理者が個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。食事介助が必要な利用者が多いユニットではその対応について意見が出て、検討した結果、日中大変な時間帯は3名体制に変更した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回個人面談を行い業務の振り返りや個人目標の達成度等ヒヤリングしキャリアパス整備や職場改善に取り組み公平な就業環境に努めている。毎月の希望休、有給休暇取得等就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に力を入れており、個々のレベルに応じて研修参加を促進し、社内研修やOJTによって日々の学びを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為対面での研修や会議は多くは行えていないがzoomを使った協議会に毎月参加し、意見交換や情報交換行い参考にさせていただいている。また、年に数回北関東エリア内の社内GH会議もあり、他県での取り組みの情報収集も行い参考にさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様の希望やご本人様の普段のご様子を聞き取り調査し、職員と情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居手続き時にご家族様が困っている事、心配な点等必ず聞き取りし、入居前に密に連絡を取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様から情報収集を行い、必要としている支援に合ったサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主体性を尊重したケアを心掛け、ご自分で出来る事は極力やって頂き、少しの介助があればご自分で出来る事は一緒に行う事で自信を持ち、逆に職員の知らない事を教えてくださる事で共に助け合い生活出来るアットホームな環境が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ前は来訪者がいない日は無い程、常にご家族様が来てくださり、良い関係を築けていたが、今は月に1度のお手紙や写真を郵送にてお送りし、ビデオ通話にて密に連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ビデオ通話や絵手紙を通じて馴染みに方との関係が途切れないよう支援している。	コロナ禍で馴染みの関係継続がままならない中、利用者の家族写真などを利用して、写真を職員と一緒に見る事で、利用者はその時代に戻って生き生きと会話をし、職員は話を膨らませながら傾聴して、利用者との馴染みの人や場所を再確認しながら、関係継続の支援に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順の配慮や職員の声かけ、介入にて耳の遠い方もコミュニケーションを図れている。誕生会やレクリエーションで1Fも2Fも交流し、ホーム全体で関わり合いを持っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍で帰宅、外出等ご希望に添えない事もあるが、希望や思いを傾聴し、ご家族様にご協力をお願いし、意向に添える様努めている。	利用者の思いや意向は本人から聞いているが、利用者によっては選択肢を提示して、自己決定していただくように努めている。困難な場合は表情で確認したり、家族に相談したりして、本人の意向に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様一人一人の生活歴や今までの暮らし方を把握し、生活環境を整え、安心してその方らしい生活が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人、その日の食事量、バイタル、排泄等細かくご様子をケアカルテに入力する事で職員間での情報共有が行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身状態の観察を行い、毎日の申し送り時や毎月の会議で報告、連絡、相談を行い、ご本人様、ご家族様に意見を聞きながらその時々々の現状に応じた介護計画書を作成している。	介護計画の長期目標は1年毎に作成し、短期目標の期間は6ヶ月として、サービス内容を記載している。毎日、サービス内容の実施状況について一覧表に記載し、モニタリングを行っている。利用者の日々の様子はタブレットPCに入力し、職員が何時でも確認・共有出来る仕組みとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を細かくケアカルテに入力することで毎日のモニタリングに反映出来る。また、気が付いた事など申し送りノートや介護日誌に書き込み職員間で情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人一人に合ったサービスの提供を心掛け、個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事には参加出来ていないが、近所の公園で地域の方達と触れ合い、交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、定期往診、夜間や緊急時にも対応して頂けている。	利用者全員が、協力医療機関の訪問診察を月に1回受けている。夜間や緊急時等24時間対応がとられるとともに、毎週歯科医の往診も行われている。整形外科や泌尿器科・認知症専門医等の受診は必要時、職員が原則対応するなど、安心出来る医療体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問にてご入居者様の健康管理。相談、助言等24時間対応にてご入居者様が適切な受診、看護を受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様の入院時は安心して治療に専念できるようご家族様、病院関係者様と密に情報交換し、早期退院出来る様、常に病院関係者との関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様を含めて、重度化や終末期について説明し、主治医より看取り期との診断があった時には再度ご家族様等協議し、方針を共有している。	入居時に、ターミナルケアが可能であることを伝えている。その後、看取り期と診断された時には、段階的に家族等の希望を確認し、希望される場合は方針を共有し、ターミナルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会を定期的に行い、急変時の対応、処置等学び訓練している。また、急変時のフローも事務所の目立つところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練にて、ご入居者様の避難方法や消火訓練は行っているが、コロナ禍で地域の方との訓練は行えず、協力体制は築けていない。	日中と夜間を想定した火災時の自主避難訓練を、年に2回実施している。コロナ禍以前は消防の指導のもと、訓練時に近所の方の参加が得られていたが、コロナ禍では地域の方の協力は築けていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の個々の性格を把握し、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	衣服が汚れている時には、他の利用者に気づかれないように、そっと言葉をかけたり、おむつ交換時には必ずカーテンを閉めるなど、個々の利用者の尊厳重視に努めている。利用者全員が女性なので、羞恥心等に配慮して入浴介助は女性職員が対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が気兼ねせず、希望や思いを発言出来る様常日頃からコミュニケーションを密にとり、自己決定が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様、一人一人の体調、気分を把握し、その日どのように過ごしたいかご本人様の希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にし、ご本人様の好む服装や身だしなみが出来る様支援している。化粧品等ご家族様にもご協力いただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、メニューの希望を取り入れたり、外食が出来ない為、お取り寄せランチを実施している。簡単な調理や片付け等お手伝いして頂いている。	敷地内に法人運営のショートステイが開設され、昼食と夕食は法人の厨房職員が作り、朝食とごはん・みそ汁は、グループホームで作っている。行事食の他、嗜好調査のもとに毎月1回のリクエストメニューや、美食メニューを提供し、楽しい大事な時間を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人が食べる量や水分量もケアカルテ入力にて情報共有出来ており、足りない方には、1日を通じて必要量摂取していただくようお声がけ支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じて、一部介助やお声がけ行っている。ご自身で出来ない方は職員が介助にて口腔内清潔保持に努めている。毎週歯科医の訪問診療もあり、良好な口腔状態を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄介助を行う事で出来るだけ自立に向けた支援を行っています。	職員はトイレでの排泄の大切さを理解しており、おむつの方でも、職員2人で介助してトイレでの排泄を支援したり、膀胱留置カテーテルが入っている方も希望でトイレにお連れするとスムーズな排便に繋るなど、自立排泄実現に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っています。軽体操支援や食物繊維の多い食べ物の摂取や水分量のチェック、必要に応じて主治医相談にて内服薬等調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様本位で入浴のお声がけ行い、ご希望の入浴剤を選んでいただき、入浴支援を行っています。	週2回の入浴が楽しみになるように、4種類の入浴剤から利用者に選んでもらっている。入浴を拒否される方には「着替えをしましょう」「お髪を綺麗にしましょうか」など、お風呂という言葉を出さないで声かけをし、清潔保持とリラクス出来る場面づくりを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、状況に応じて衣類・室温調整行い、時には足浴等行い、安心して眠れる様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の服薬情報はケアカルテや個人ファイルで確認できる状態になっており、症状の変化等毎日の申し送り報告、連絡出来ている。服薬支援システムを導入しており、誤薬事故防止に役立っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の趣味や得意分野で個々の力を発揮していただき、感謝の気持ちを伝える事で信頼関係が築けている。役割を持つことで生活に張り合いや喜びを持って頂ける様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えているが、近所の公園や2Fベランダに出て日光浴行っている。	コロナ禍前は多彩なイベントを行ったり、花見や外食などに出かけていた。コロナ禍で外出を控えているので、2階のバルコニーで日光浴をしたり、花やトマトを育て楽しんだりしている。近くの公園では、散歩に来ている方の犬と触れ合うこともあり、努めて外気浴と季節を感じてもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出の支援を控えているのでお金を預かり、職員が代行で買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で以前よりも手紙やビデオ通話のやり取りが頻繁になった。いつでも電話やビデオ通話ができる様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアではご入居者様がくつろいで過ごせるよう、ソファーやテレビの位置、音量に配慮し、季節の花等配置し居心地よく過ごせるよう工夫している。	広々としたフロアには食事や趣味活動等ができるようにテーブルとイスが置かれ、リラックスしてテレビ鑑賞ができるようにソファを配置している。動画を流したり、演歌などリクエストしてもらい、楽しく過ごせるよう工夫し、採光にも配慮して、居心地よく過ごせる支援が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様はホールにてゆったり過ごせるよう、テーブルや腰掛、ソファー等配置し居心地よく過ごせる様努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしく使い慣れた品物を持ち込んで頂き、安心できる居室作りに努めている。	居室はその人らしい部屋模様で、飾りつけがない部屋もあれば、夫の遺影や自分で作った人形などを持ち込んでいる部屋や、壁にカレンダーやホームで作った作品を飾っている部屋など、それぞれの利用者が安心できる居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様の安心、安全に心掛け、日時が分かる様にカレンダーや時計、その日の献立等配置し自立した生活ができる様に環境作りを行っている。		

自己評価および外部評価結果 2F

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は毎日社長からのメールに記入されており、社員全員が目にしており、意識している。太田GH独自の理念は朝・夕の申し送り時必ず目にする場所に掲示し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になってからは行えていないが、地域の方にお声がけし、消防訓練や、ごみ拾い等行いたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍になってからは行えていないが、地域交流室を活用した認知症予防体操や介護相談等行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為対面での会議は行えていないが市役所の介護サービス課や区長、民生委員様に資料をお送りして報告、意見をいただくようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス課、地域包括、保健センター等連携を図り必要に応じて報告、相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化・虐待防止委員会を3ヶ月に1回行い、毎月のGH会議で身体拘束・虐待防止の研修を行い不適切ケアの分析を行い拘束・虐待の無いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の前の不適切ケアの分析に力を入れ虐待が起きないように内部の研修会において学びを深め、あらゆる場面で虐待が起きないように理解と予防につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃる機会、学ぶ機会も多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約は時間をかけ1つ1つ疑問が無いか確認しながら行い、納得頂いた上で署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様とのコミュニケーションは常日頃から重要視し、意見要望の吸い上げに取り組み、頂いたご意見は迅速に反映させサービス向上に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、GH会議の際職員からの意見や提案を聞く機会を持ちコミュニケーションを図り何でも話し合える環境にある。職員から出た意見や要望はスピード感を持って対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回個人面談を行い業務の振り返りや個人目標の達成度等ヒヤリングしキャリアパス整備や職場改善に取り組み公平な就業環境に努めている。毎月の希望休、有給休暇取得等就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に力を入れており、個々のレベルに応じて研修参加を促進し、社内研修やOJTによって日々の学びを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為対面での研修や会議は多くは行えていないがzoomを使った協議会に毎月参加し、意見交換や情報交換行い参考にさせていただいている。また、年に数回北関東エリア内の社内GH会議もあり、他県での取り組みの情報収集も行い参考にさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様の希望やご本人様の普段のご様子を聞き取り調査し、職員と情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居手続き時にご家族様が困っている事、心配な点等必ず聞き取りし、入居前に密に連絡を取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様から情報収集を行い、必要としている支援に合ったサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主体性を尊重したケアを心掛け、ご自分で出来る事は極力やって頂き、少しの介助があればご自分で出来る事は一緒に行う事で自信を持ち、逆に職員の知らない事を教えてくださる事で共に助け合い生活出来るアットホームな環境が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ前は来訪者がいない日は無い程常にご家族様が来てくださり、良い関係を築けていたが、今は月に1度のお手紙や写真を郵送にてお送りし、ビデオ通話にて密に連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ビデオ通話や絵手紙を通じて馴染みの方との関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順の配慮や職員の声かけ、介入にて耳の遠い方もコミュニケーションを図れている。誕生会やレクリエーションで1Fも2Fも交流し、ホーム全体で関わり合いを持っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍で帰宅、外出等ご希望に添えない事もあるが、希望や思いを傾聴し、ご家族様にご協力をお願いし、意向に添える様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様一人一人の生活歴や今までの暮らし方を把握し、生活環境を整え、安心してその方らしい生活が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人、その日の食事量、バイタル、排泄等細かくご様子をケアカルテに入力する事で職員間での情報共有が行えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身状態の観察を行い、毎日の申し送り時や毎月の会議で報告、連絡、相談を行い、ご本人様、ご家族様に意見を聞きながらその時々々の現状に応じた介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を細かくケアカルテに入力することで毎日のモニタリングに反映出来ている。また、気が付いた事など申し送りノートや介護日誌に書き込み職員間で情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人一人に合ったサービスの提供を心掛け、個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事には参加出来ていないが、近所の公園で地域の方達と触れ合い、交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、定期往診、夜間や緊急時等24時間対応して頂けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問にてご入居者様の健康管理。相談、助言等24時間対応にてご入居者様が適切な受診、看護を受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様の入院時は安心して治療に専念できるようご家族様、病院関係者様と密に情報交換し、早期退院出来る様、常に病院関係者との関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様を含めて、重度化や終末期について説明し、主治医より看取り期との診断があった時には再度ご家族様等協議し、方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会を定期的に行い、急変時の対応、処置等学び訓練している。また、急変時のフローも事務所の目立つところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練にて、ご入居者様の避難方法や消火訓練は行っているが、コロナ禍で地域の方との訓練は行えず、協力体制は築けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の個々の性格を把握し、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が気兼ねせず、希望や思いを発言出来る様常日頃からコミュニケーションを密にとり、自己決定が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様、一人一人の体調、気分を把握し、その日どのように過ごしたいかご本人様の希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、ご本人様の好む服装や身だしなみが出来る様支援している。化粧品等ご家族様にもご協力いただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、メニューの希望を取り入れたり、外食が出来ない為、お取り寄せランチを実施している。簡単な調理や片付け等お手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人が食べる量や水分量もケアカルテ入力にて情報共有出来ており、足りない方には、1日を通じて必要量摂取していただくようお声がけ支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じて、一部介助やお声がけを行っている。ご自身で出来ない方は職員が介助にて口腔内清潔保持に努めている。毎週歯科医の訪問診療もあり、良好な口腔状態を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを把握し、個々の能力に応じた排泄介助を行う事で出来るだけ自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防と対応を行っています。軽体操支援や食物繊維の多い食べ物の摂取や水分量のチェック、必要に応じて主治医相談にて内服薬等調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様本位で入浴のお声がけ行い、ご希望の入浴剤を選んでいただき、入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、状況に応じて衣類・室温調整行い、時には足浴等行い、安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の服薬情報はケアカルテや個人ファイルで確認できる状態になっており、症状の変化等毎日の申し送りで報告、連絡出来ている。服薬支援システムを導入しており、誤薬事故防止に役立っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の趣味や得意分野で個々の力を発揮していただき、感謝の気持ちを伝える事で信頼関係が築けている。役割を持つことで生活に張り合いや喜びを持って頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えているが、近所の公園や2Fベランダに出て日光浴行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出の支援を控えているのでお金を預かり、職員が代行で買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で以前よりも手紙やビデオ通話のやり取りが頻繁になった。いつでも電話やビデオ通話ができる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアではご入居者様がくつろいで過ごせるよう、ソファやテレビの位置、音量に配慮し、2Fベランダにて季節の花を育て居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様はホールにてゆったり過ごせるよう、テーブルや腰掛、ソファ等配置し居心地よく過ごせる様努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしく使い慣れた品物や、ご主人の遺影等持ち込んで頂き、安心できる居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様の安心、安全に心掛け、調理のお手伝いやシーツ交換、居室掃除等職員と共に行い、自立した生活ができる様に環境作りを行っている。		